

お稚児さんを先頭に職衆（真流寺院在職方）、導師（当山住職）、役員、檀信徒と続き、奥の院に向けてお練りが進めました。



奥の院の大仏像前では、はじめに有志の方々による越中おわら節の踊りが奉納され、大勢の参列者の目を楽しま

せた後、阿弥陀如来座像（大仏）の開眼供養が行われました。荘重な声明の響きに合わせて除幕が行われ、優しいお顔の大仏さまがその姿を現わされました。法要の中で、導師は現当二世の安楽（この世と来世の安らかなること）を阿弥陀さまに祈りました。

十一時からは場所を本堂に移して、慶讃法要が行われました。今年の六月十五日は、宝亀五年（七七四）に弘法大師空海さまがお生まれになってからちょうど一千二百五十年になります。お大師さまのお徳を偲び、そのご恩に報いるための法要を檀信徒の皆様とともにとお勤めできたことは、住職として何よりの喜びでした。

法要に続く式典は、本事業の委員長である山崎正治様からの御挨拶と経過報告が始まり、責任役員・筆頭総代の洞下登様が代表して管長猥下の褒賞を受けられ、お祝いを述べられました。続いて施工を担当された翠雲堂様、池田石材様、山崎建設工業様、須賀徳光様に感謝状と記念品が贈呈され、御来賓を代表して千葉県第一号宗務支所長

鰐部博明様、流山市仏教会の福田康夫様（春山寺御住職）、法類の下村法之様（布施弁天東海寺御住職）がそれぞれご祝辞を述べられました。

今回の事業に対してご協力いただきました皆様、とりわけ貴重な御浄財を頂いた檀信徒の皆様を表心より感謝申し上げます。

福性寺だより

① 御影供法要

真流では弘法大師空海様が入定された三月二十一日の辺りに当番寺院へ僧侶が集い弘法大師を讃える御影供法要を行います。

